



北海道立農業大学校

聖鋤会報

発行所
北海道立農業大学校
同窓会

中川郡本別町西仙美里25-1
電話 0156-24-2122
編集事務局

新しい時代に向かって



北海道立農業大学校同窓会

会長 若井和博

雪の便りが聞かれるようになりまし
た。同窓会の皆様におかれましては、
御健勝にてお過ごしのことと存じま
す。

収穫期を終えた今、この一年を振り
返ってみると、本当に天候に左右され
たように思われます。春の蒔きつけか
ら管理作業まで、少しでも多くの収量
をと願いながら進めていきましたが、
思うようにはかどらず気を揉む毎日。
天候に泣かされたのは畑作だけではな
かったと思います。それぞれの分野に
おいて、自然とともに生きることの難
しさを痛感させられたのではないでし
ょうか。

私達をとりまく社会の中で、もう一
つ大きな変化がありました。政権交代

です。まだ始まって期間が短く、政策
をはっきりと捉えることができませ
んが、農産物の自給率が上がるような対
策をとっていただきたいと思います。
それに併せて、農業に従事する者達
が、若者の新しい息吹きをとり入れな
がら、地域との連携を保ち、しつかり
とした基盤を作って次世代への農業を
確立させるよう前進していきまし
ょう。

今後とも同窓会に御理解・御協力を
お願いいたしますとともに、新たな年がよ
りよい年になりますことを御祈念し、
あいさつと致します。

期別世話役

- 〈農講〉2 鈴木一義 / 3 川端治 / 5 菅谷誠・渡辺善信 / 7 大沢義一 / 8 植田博
- 9 森田洋三 / 10 森山睦美 / 11 大平清吉 / 13 辺見政孝 / 16 小南和夫 / 17 佐川満 / 18 吉田甫 / 19 西山利昭 / 20 河田裕
- 21 相沢勲 / 22 石川眞清 / 23 松崎文一 / 25 仲鉢昭夫

- 〈農大〉1 川本秀二 / 2 和田嘉晴 / 3 塩村昭博 / 4 石丸博雄 / 5 高井正行 / 6 道下貞夫 / 7 笹島喜郎 / 8 岩井敦史 / 9 井出和実 / 10 富山和也 / 11 石原英之 / 12 森本耕二 / 13 宮本茂行 / 14 牧村康弘 / 15 小松洋一 / 16 遠山昇治 / 17 田村直樹 / 18 大碓晋二 / 19 近藤大樹 / 20 三田浩司 / 21 佐藤昭徳 / 22 熊谷直哉 / 23 田中真理子 / 24 塚田秀則 / 25 齋藤かおり / 26 日光純一・渡邊基樹 / 27 柏葉宏樹・嶋貫一也 / 28 鈴木隆也・中澤光太郎 / 29 今西大和・今野大吾 / 30 山本秀幸・佐藤貴文 / 31 中澤好喜・幕田桂一 / 32 黒川昌毅・若木章宏 / 33 廣瀬正幸・下田奨 / 34 毛房智幸・原田宏幸
- 〈農大稲作〉1 吉田和浩 / 2 大江博之 / 3 穴戸聖 / 4 平塚美明 / 5 水嶋淳・伊藤優治 / 6 石川英樹 / 7 嶋田雅虎 / 8 泊り雅幸 / 9 石崎憲一 / 10 富樫孝 / 11 岡村博信 / 12 平隆之介 / 13 吉見拓也 / 14 吉村正之 / 15 森勇貴 / 16 石川大輔 / 17 竹内誠 / 18 國岡晃平 / 19 中山義之 / 20 外山隆祥 / 21 下道達也 / 22 黒川直樹
- 〈農大研究〉1 内野康晴 / 2 加藤幸嗣 / 3 木村晴美 / 4 山岸淳 / 5 中西崇継 / 6 今西大和 / 7 仁井邦夫 / 8 鈴木健司 / 9 佐藤直哉

同窓会ホームページが移転しました

—新しいアドレス—

<http://noudai.sakura.ne.jp/>

(「北海道立農業大学校同窓会」で検索)

メール : s-noudai@star.agri.prerf.hokkaido.jp



今年の出来事



北海道立農業大学校

校長 樋口 廣作

寒さが日一日と増し、冬本番を迎えようとしています。同窓会の皆様にはお元気で御活躍のこととお慶び申し上げます。

また、日ごろから、本校の運営に多くの御支援と御協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

今年、北海道にも梅雨があったのかと思わせるようなすつきりしない天気が春から続き、夏になっても雨の日が多く、夏らしい暑さを感じられませんでした。そのため、本校の農作物も明らかに生育が悪く、収量・品質ともに期待を大きく下回りました。学生のプロジェクトにも支障があったのではないかと思います。冷夏の影響は、学校周辺の木々にも現れており、ドングリやクルミ、松の実がほとんどなくなっていませんし、ナナカマドの赤い実も例年と比べ大幅に少ないと思います。人にも動物にも厳しい冬になりそうです。

今年の本校の出来事を御報告したいと思えます。本別町ではマイマイガが大発生し、ニュースやワイドショーで全国TV放送されました。本校も六月

頃から毛虫の大発生があり、農薬を撒いたり、箒で叩いたり、バーナーで焼いたりと手を尽くしましたが、次から次と発生してくるので手に負えませんでした。結果、桜やリンゴ、ナナカマドなどの木々が葉を喰われて丸裸になり、蛾の大発生となりました。

そして、新型インフルエンザの流行です。ゴールデンウィーク明けに国内初の感染者が関西で発生し、六月中旬には札幌、旭川、帯広など道内の主要都市でも感染者が確認されました。本校では、感染者の発生により、休校・閉寮しなければならなかった場合の家畜や農作物の管理をどうするかなど、最悪の事態も想定して、対策の検討を行いました。また、毎年秋に行っているオーストラリア・ニュージランド方面への海外農業視察研修については、南半球で感染拡大が伝えられていたことから中止も検討しましたが、その後終息に向かっているとの情報があり、学生の期待も大きかったことから、実施することになりました。しかし、海外研修出発を一週間後に控えた十月二十日、遂に複数の感染者が発生

し、学年閉鎖するという事態になりました。出発するまで冷や冷やものでした。

このように、今年はマイマイガと新型インフルエンザに悩まされた年でした。

一方、歴史的に見ても、今年は記憶に残る年になるのではないのでしょうか。自民政権から民主党政権に変わり、北海道から初の首相が誕生しました。既に様々な改革が始められつつありますが、来年度以降、農業政策も大きく変わると見込まれます。

猫の目のように変わるのも困りますが、良い方向に変わるのであれば大歓迎です。是非、一刻も早く、子供達が進んで農業に就きたくなるような経営環境を作ってほしいと願わずにはおれません。

本校の学生達は、農業に夢を抱いて、意欲的に課業に取り組んでいます。我々農大職員は、学生達のやる気を伸ばし、激変する農業環境に立ち向かっていける力を鍛えていきたいと考えています。また、そのために更に努力してまいります。

同窓会の皆様には、本校に対し、今後とも変わらぬ御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

農大の一年

一月 冬季体育大会

一月二十三日、冬季体育大会が行われました。雨という、あいにくの天気の中で行われましたが、雪上雪合戦も、バレーボールも白熱した戦いになり、普段運動できないストレスを発散しました。



三月 卒業式

三月十三日に卒業式が行われ、畜産経営学科二十八名、畑作経営園芸学科二十九名、稲作経営専攻コース八名、農業経営研究科九名が、それぞれ本校を卒業、修了しました。

四月 入校式

四月八日に入校式が行われ、畜産経営学科二十六名、畑作園芸経営学科三十四名、稲作経営専攻コース十名、農業経営研究科十三名が入校しました。入校式翌日からは早速、オリエンテーション、新歓コンパなどの行事が相次ぎ、慌ただしさの中、一年生は農大生としてのスタートを切りました。

駅伝大会

四月二十四日、駅伝大会（春季体力錬成大会）が行われました。寮の部屋別に組まれた各四名のチームが十五、三km（女子は十三・三km）のコースを

駆け抜けました。優勝を狙い陸上競技並みのペースで走るチーム、マイペースで走るチーム、ム、仮装をしてウケ狙いに走るチーム、と駅伝への臨み方は様々でしたが、どの選手もゴール後には満足そうな表情が浮かんでいました。



六月 帯広畜産大学別科との交流会
今年も帯広畜産大学を会場に、農大生と帯広畜産大学別科の学生が交流を行いました。談話会では、班毎に、「若者とは?」、「夢」など設定されたテーマに基づいて意見交換を行いました。また、対抗競技ではバスケットボール、綱引きなどの種目で体力を競い、最後は帯広畜産大学別科の優勝で閉会しました。

七月 農大祭
農大最大のイベント農大祭。一日目の七月四日は体育大会で幕を開けました。学生達は、リレーや、騎馬戦、タイヤ取り等の競技で日頃の練習で鍛えた体力を発揮、クラス対抗というところもあり、どの競技も

白熱した激しい勝負になりました。夜は体育館に会場を移し前夜祭が行われました。腕相撲、綱引き大会の予選や、各クラスが趣向を凝らしたパフオーマンズを披露しました。最後はそれまでの学生生活のスナップを集めたビデオ上映を行い、農大祭の開催が高らかに宣言されました。



二日目の本祭では、各学科、クラブの模擬店が校庭に並び、特設ステージでは、恒例の女装コンテスト、早食い大会や腕相撲、綱引きの決勝トーナメント、そして、学生有志によるライブが行われ、農大祭は最高潮を迎えました。

後夜祭では全員が校庭内で焼肉を囲み、最後は打ち上げ花火の音が会場に響き渡り、感動的なフィナーレとなりました。

十月 農大市
十月十八日、農大市が開催されました。学生がこれまで丹精を込めて育てた野菜や馬鈴薯、豆類、牛肉、加工品を販売しました。今年も、牛肉の販売を別の棟に移してシチューやハンバーグを試食してもらい、来場者に味を確かめてもらいながら、販売しました。今年も、早朝から多くの町民が押し寄せ、用意したほとんどの品物がめでたく完売しました。

平成四年四月、農大に入学してまず私が感じたのは、「寒い!」の一言でした。その頃、寮新館は一部完成していたのですが、私が入っていたのは旧館で、暖房は効かず陽も入らず布団にくるまっていなければ、部屋に居られませんでした。

ところが数年前に、農大を訪れた私は「なんじゃこりや!」と目を疑いました。寮はいうまでもなく校舎も全て建てかわり、敷地は舗装になっていて、それはもうキャンパスという言葉がしっくりくる姿に変わっていたのです。そのときは車の中から見ただけなのでわかりませんが、今でもたまに、あの頃使っていた自転車は...、トラクター・クボタL3500等、どうなったのかなーと考えたりしています。

さて、卒業してから十五年が経った今、私は経営主となり、地元の仲間や先輩方と、異常とも言える昨今の天候と戦いながら、何とか農業を続けています。農大にいた頃とは農業情勢も世界の経済事情も変わってしまいました。が、日々勉強と思えば農大で培った精神

同窓生の広場

十五年を経て



畑作園芸経営学科 十九期生
南 美彦 (安平町)



畑作園芸経営学科 十二期生
森本 耕二 (士幌町)

を忘れず前へと進めるように(たまたに過去を振り返ったりしながら)これからも努力したいと思えます。
農大を卒業して

ビートの収穫の中、学校から電話があり、「聖欽会報の原稿を書いてほしい」とのことでした。すぐに「はい、わかりました」と、返事はしたものの、何を書こうかと悩みました。早速その日の夜に、久しぶりに卒業アルバムを出してみると、つい思い出し笑いをしませんでした。

当時私は、「寮長」をやらせてもらいました。総勢百六十名の中での寮長は、毎日いろんな事がありました。そんな毎日が良い思い出です。今考えてみると、苦手を勉強もつらい実習も、いろんな事があった寮生活も、一人じやなく沢山の友人、先生方がいたから楽しい二年間を過ごせたと思います。

私は二年間の学校生活の中で、勉強・技術を学びましたが、友達の大切さなどかけがえのないものも学び、いろんな思い、経験をさせていただき大変ありがたいと思っています。

私は現在士幌町で農業を営んでおります。早いもので今年で四十三歳、長男は高校受験を迎えます。息子が将来農業を営むかどうかはまだわかりませ

んが、農業を営むのであれば、ぜひ農大のような学校で、いろんな事を学んでほしいというのが親の願いです。

最後に、今回学校生活を思い出し、懐かしく思い、急にクラス会をしてみんなに会いたくなりました。

トピックス

**農畜産物加工品ブランド
「仙美里ヶ丘」の取り組み**

近年、農畜産物の付加価値化が進み、農業経営研究科では、平成十八年度よりカリキュラムの中で学生が自ら加工品の、製造から販売までを実践しています。品目はアイスクリーム、チーズ、ソーセージ、ジャム、パンで農大産の牛乳や農畜産物を中心とした原料で製造しています。

農大の所在地にちなんだ「仙美里ヶ丘」というブランド名のもと、農大祭や、農大市などの学校のイベント、町内外の行事での販売や、道の駅「ステラ★ほんべつ」でのアイスクリームの常設販売を行っています。

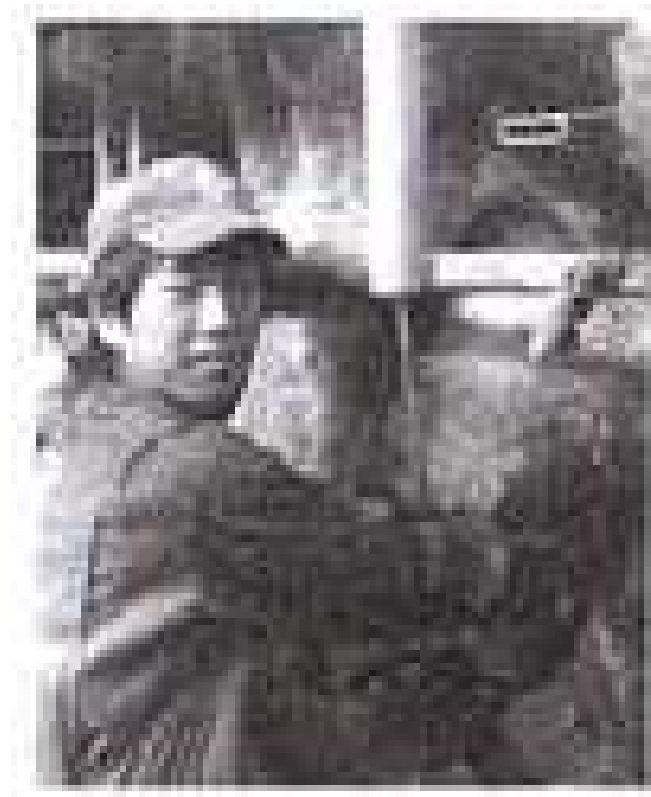
また、現在は黒豆を使ったブランド「キレイイマメ」に取り組んでいる本別町と共同で新商品「黒豆アイス」(仮称)の開発に取り組んでいます。

今後も「仙美里ヶ丘」ブランドの新たな展開が期待されます。



新しい仲間

デンマークからの便り



畜産経営学科
三十四期生
五十嵐大地
(白糖町)

同窓会の皆さん、いかがお過ごしでしょうか。僕は農大を卒業して、デンマークに研修に来ました。不安と期待を胸にデンマークの土地に降り立ち、早くも五ヶ月が過ぎました。

研修は一年間の予定で、もう半分が過ぎようとしています。こちらでは、文化の違い、仕事の違いに驚き、楽しみ、そしてたくさんを学んでいます。

これまでの研修は楽しいことばかりではなく、辛いこともたくさんありました。しかし、農大での二年間で得た、素晴らしい仲間の励ましと、農大で育んだ農大魂でこれまでを乗り切ることができました。

毎日の早起き、言葉の壁、仕事の考え方ややり方の違い、何時まで明るいんだ？？？という夏の夜、太陽が恋しい冬の昼間、一緒に働いたロシア人との時間、世界中の研修生と飲んで語った週末の夜、いつの間にか繋がってたワーキングホリデーの日本人と遊んだ日々、お世話になってる日本、デンマークの機関の人方とお話し...

てがいい思い出となり、今後の自分にとっての力になると思います！

研修が終わってからは、自家で就農予定なので、デンマークでの短い時間を大切にして、自家に戻って役に立つように、これからは沢山のことを学びたいと思います！

あゝ日本に戻ったらまた農大時代みたいにみんなと飲み明かしたいな！

就農して



畑作園芸経営学科
三十四期生
原田 宏幸
(音更町)

皆さんお元気でしょうか？特に畑園三十四期生の方、就農一年目はどうでしたか？

今年の春に農大を卒業してから半年以上の月日が経ち、就農一年目の農作業も終盤を迎えようとしています。

農大での生活は現在でも昨日の事のように思い出します。改めて振り返ると一瞬で駆け抜けたようなとても早い二年間でしたが、とても楽しく充実した日々を過ごすことができました。プロジェクトを通して実践的な技術や知識を身につけることができたのと同時に、同じ「農業経営者」を目指す仲間と日々を過ごす事により、人生の友を得ることができたと自負しています。

就農するための基盤を少なからず築くことができましたと思います。私事になりますが、就農一年目は近

年に例がない不作の年となりました。農業は自然が相手なので、致し方ない部分もあると思います。しかし、こんな時だからこそ先を考え、何をすべきか考えることが必要だと思います。

これは農大でのプロジェクトの延長戦上に位置していると考えています。今後はプロジェクトで取り組んだ結果をいち早く自家に取り組み、父から経営を受け継いだ時には経営の安定化を行いたいと考えています。

最後に繰り返しになりますが、農大での生活は最高の思い出です。これからはこの思い出を更に価値のあるものにするために、努力していきたいと思っています。

これから



稲作経営専攻コース
二十二期生
黒田 直樹
(沼田町)

今春卒業してからまだ半年ですが、農大で教わったこと、諸先生方、仲間がとても懐かしく、思い出がよみがえります。

私は、主に深川の拓殖短期大学で講義を受け、稲作経営専攻コースを卒業しました。その中で沢山の仲間との出会いがあり、新聞などでその活躍を知り、とても励みになっています。春から卒業し現実には厳しいと実感しています。秋から農協の半バラ施設へ

のアルバイトなどをしていますが、はじめは不安や緊張で一杯でしたが、地域の皆さんの温かい励ましの言葉をいただき、農業の担い手として頑張っているかと思っっています。

農大の皆さん！今を大切に、仲間を大切に、夢を持って、学生生活を大いに楽しみ、実りある学生生活を送ってほしいと思います。

農大を卒業して



農業経営研究科
九期生

佐藤 直哉
(上川町)

農大のみなさん、同期のみなさんお元気ですか？今年の春、五年という農大での長い学校生活から卒業して早いもので一年が経とうとしています。

農大での五年間は同じ志を持った仲間と基本的な知識と技術を得ることができました。さらに地域のリーダーとしての意欲もわきました。研究科で過ごしていたとき、養成課程で同期だった仲間は一足先に就農し、4日クラブや地元青年部で活躍する姿にもものすごく刺激されました。「俺もやってやるぞ」と意気込んで迎えた就農一年目でしたが、思うようにいかず、不甲斐ない一年でもありました。

今年も、かつて農大の主任講師としてお世話になった、滝川花・野菜技術センターの川名技術普及部長の紹介で同センターの専門技術研修を約三ヶ月

間受けました。そこでは、新規導入を予定しているスプレー菊を実際に栽培し、来年早速導入することになりました。そんなわけで、一年の約四分の一は研修で実家を空けていたので、来年は自家で農業に励み、この研修成果を活かしたいと思っています。

これから冬になりますが、私は地元防除組合の支援もあつて農業用無人ヘリコプターの免許取得をめざし、勉学に努めようと考えております。また、休閑期を利用して経営を分析し、我が家にとってプラスとなるような経営方針を考えていきたいと思っています。地域のリーダーとしても農大で出会った仲間達とお互い刺激し合いながら地元の活性化を目指していきたいと思っています。

期別活動

農講七期生同期会

農業講習所七期生は第四回目の集いを平成二十一年六月三日阿寒郡鶴居村「ホテル グリーンパークつるい」で開催致しました。
同期生十一



幹事 土門 満雄

名と木村猛三先生を囲んで楽しい一夜を過ごしました。なお、二夜を過ごした人もいました。

農講十五期生同期会

幹事 本保 征喜

平成二十一年三月十八日、十勝川温泉ホテル大平原にて、前回約束した通り十勝勢が幹事となり聖嶽十五期会を開催しました。

一昨年から夫婦同伴で参加することにし、諸般の事情から今回は一人の方もおりましたが、土門、尾上両先生の参加を、総勢二十二名で終始和やかな雰囲気の中で有意義に過ごすことができました。



夫婦同伴も

なかなか良いもので奥様方同士もすっかり打ち解けて楽しそうに話している様子に感銘しました。

我々の年代になると、一日一日が非常に大事であり貴重であると思っております。お互い健康管理に十分気を付けながら、次回は北網地区で開催することを確認し散会いたしました。

「時を越えて」

農講二十一期生同期会

幹事 相澤 勲

平成十八年に四十年ぶりの同窓会を開催した際に、十勝だけでも毎年開きたいとの希望がありました。去る平成二十一年二月二十一日に十勝川温泉宮館において二回目の十勝会の同窓会が十九名の出席を得て開催されました。

同窓生の一人、小木俊一氏が制作中の四十年後のアルバム作りも八割近くの撮影が出来、十五歳の時の面影のある現在の顔を見て皆懐かし、くまた歳月の流れを実感しました。

今回三名の方が初めて参加されましたが、わずかな面影で名前の判る人もおり、翌朝帰る頃にはずっと付き合ひのあつた友のように話し「自分のことを覚えていてくれるだろうか？」という心配など吹き飛ばしてしまいました。



来年はアルバムを完成させ、還暦を迎える全員での同窓会を予定しております。皆さん楽しみにして下さいます。

農大三十三期生同期会

幹事 小渡 哲也

同窓生の皆さん、並びに在校生、学校関係者の皆さんお元気ですか。私達十三期生は四年前より道東圏、道央圏、道北圏と場所を移しながら同期会を開催しています。そして平成二十年十一月十五日、卒業してから二十二年にあたる年に、当時我々の担任をしていたた松永先生、奥山先生のお二人を囲み、帯広市内にて総勢十八名で同期会を開催しました。

各々流石に四十代とあって「いいおっさん」になったなあっというのが印象で、来られない顔のことも話題に上げては「会いたいな」という話になったり「今、こうしてるんだ」と自分自身の近況をお互いに話し合ったりと、瞬く間に時間は過ぎていきました。



そしてまた翌年、次は道央圏開催の年として「来年、札幌で会おう」を言葉にそれぞれの時間に戻っていったのでした。今回残念ながら参加できなかった皆さんも次回、都合がよければ会えることを願っています。それでは皆さんお元気で、そして十三期のみんな、札幌で会いましょう。

追伸、振り返ってみると私達って昭和六十三年卒業ということとは昭和時代の最後の卒業生だったんですね。って、意識した人っていませんよね？(笑)

農大三十四期生同期会

幹事 河村 亮太

平成二十一年七月五日本別町にて畑園三十四期生の第一回同窓会が開催されました。

農大祭をかねて約二十人が集まりました。みんなに会うのは卒業式以来でしたが、大人びた感じに変わっているようで、変わっていいなく、どこか懐かしいような不思議な感じがしました(笑)。

農大祭では先輩や友達に会い、学生の時を懐かしく思い出しながら、話をしたり、イベントなどを楽しみました。

そして、いよいよ楽しみにしていた一次会が始まりました。一次会は焼肉屋で行いました。また、先生方も交えてだったのでとても懐かしく思いました。

二次会は、本別公園のバンガローに場所を移し、次の日も仕事がある中、ほぼ全員が集まり、楽しく朝まで飲んで騒ぎました。

まだ、就農して間もないですが、今後も、各自農業に誇りを持って頑張っていこうと誓い合い、無事同窓会も終了しました。

この同窓会を通じて、人と人のつながりの大切さを改めて知りました。



事務局からのお知らせ

1 支部活動・同期会の助成について

支部活動及び期別活動を計画された際には同窓会事務局まで一報下さい。諸経費の一部を助成します。またホームページや会報等で活動の様子を紹介させていただきますのでよろしくお願いたします。

2 「同窓生の広場」への投稿について

同窓会事務局では、聖嶽会報「同窓生の広場」への投稿を受け付けております。投稿される方は事務局までお気軽にご連絡下さい。

3 ホームページ移転のお知らせ

同期会ホームページは八月に移転しました。新しいアドレスは一ページ目に記載していますのでご確認ください。また利用停止しております掲示板的の交流の場として是非ともご利用下さい。

その他、支部会開催のお知らせ、開

催結果、その他活動等について、ご要望がございましたらホームページ上で掲載させていただきます。事務局までご連絡下さい。

編集後記

▽年の瀬も迫り、あわただしい日々が続いていますが、会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。今年も聖嶽会報をお届けします。

▽校長のあいさつにもありましたフルエンザに振り回された一年になりました。

▽マイマイガは、街灯に煙のように群がる様子もさることながら、産み付けた卵の数が尋常ではなく、学生ホール(旧体育館)の外壁も、一時マイマイガの卵がびっしり張り付いていました。

▽インフルエンザは十一月に行つた二学年の海外研修の前後に流行し、一時は学年閉鎖になるまで発症者が増えましたが、十二月に入つてようやく沈静化しました。

▽来年度は三年に一度の総会を迎えます。今後とも、会員皆様方の交流をお手伝いしてきたいと思えます。皆様の御協力を御願いたします。

(事務局)